

南シナ海における中国の活動

2015年5月29日
防衛省



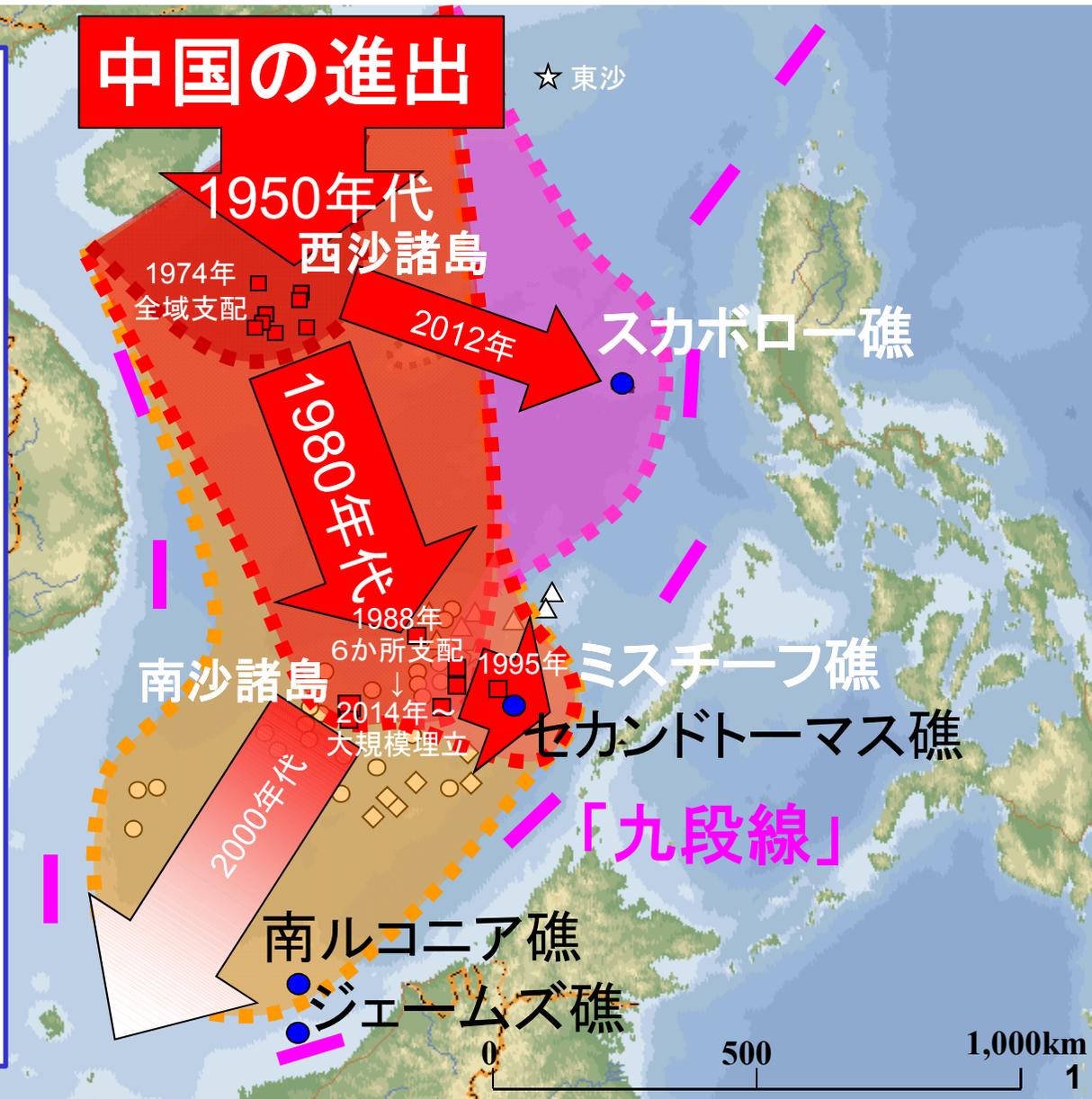
1-1 中国の南シナ海における進出

● 中国は力の空白を突いて南シナ海全域に進出(50'-70'西沙諸島→80'-南沙諸島)

関連年表

- 1950年代: **仏軍撤退**
- ↓
- 1950年代: 中国、西沙諸島の半分を占拠
(南越も同時期に西沙諸島進出)
- ↓
- 1973年: **在南越米軍撤退**
- ↓
- 1974年: 中国、西沙諸島全域支配(南越撃退)
(1975年: 南越崩壊(ベトナム戦争))
- ↓
- 1980年代半ば: **在越ソ連軍縮小**
- ↓
- 1980年代: 中国、南沙諸島進出
- 1988年: 中国、南沙諸島6か所占拠
- ↓
- 1992年: **在比米軍撤退**
- ↓
- 1995年: 中国、ミステーフ礁占拠
- ↓
- 2000年代: 中国、南シナ海南部進出
- ↓
- 2012年: 中国、スカボロー礁事実上支配
- ↓
- 2014年~: 中国、南沙諸島において**大規模埋立実施**

中国の進出





1-2 中国の進出に際しての交戦事例

● 中国がそれまで未占拠の島嶼へ進出した際、1974年及び1988年の2回にわたりベトナムとの間で戦闘が生起

1974年1月、中国が民兵を乗船させた艦艇部隊（哨戒艇等6隻）をそれまで占拠していなかった西沙諸島の西部へ派遣、南ベトナムのフリゲート等4隻と交戦

中国側の損害
艦艇4隻に損傷
85名が死傷



中国の哨戒艇

南ベトナム側の損害
艦艇1隻が沈没、3隻に損傷
100名以上が死傷



南ベトナムのフリゲート

南ベトナム側が撤退し、中国が西沙諸島の全域を占領

1988年1月、南沙諸島に基地のなかった中国が艦艇部隊を派遣しファイアリークロス礁で構築物建設を実施。3月、ジョンソン南礁において中国フリゲート3隻がベトナム揚陸艦等3隻と交戦

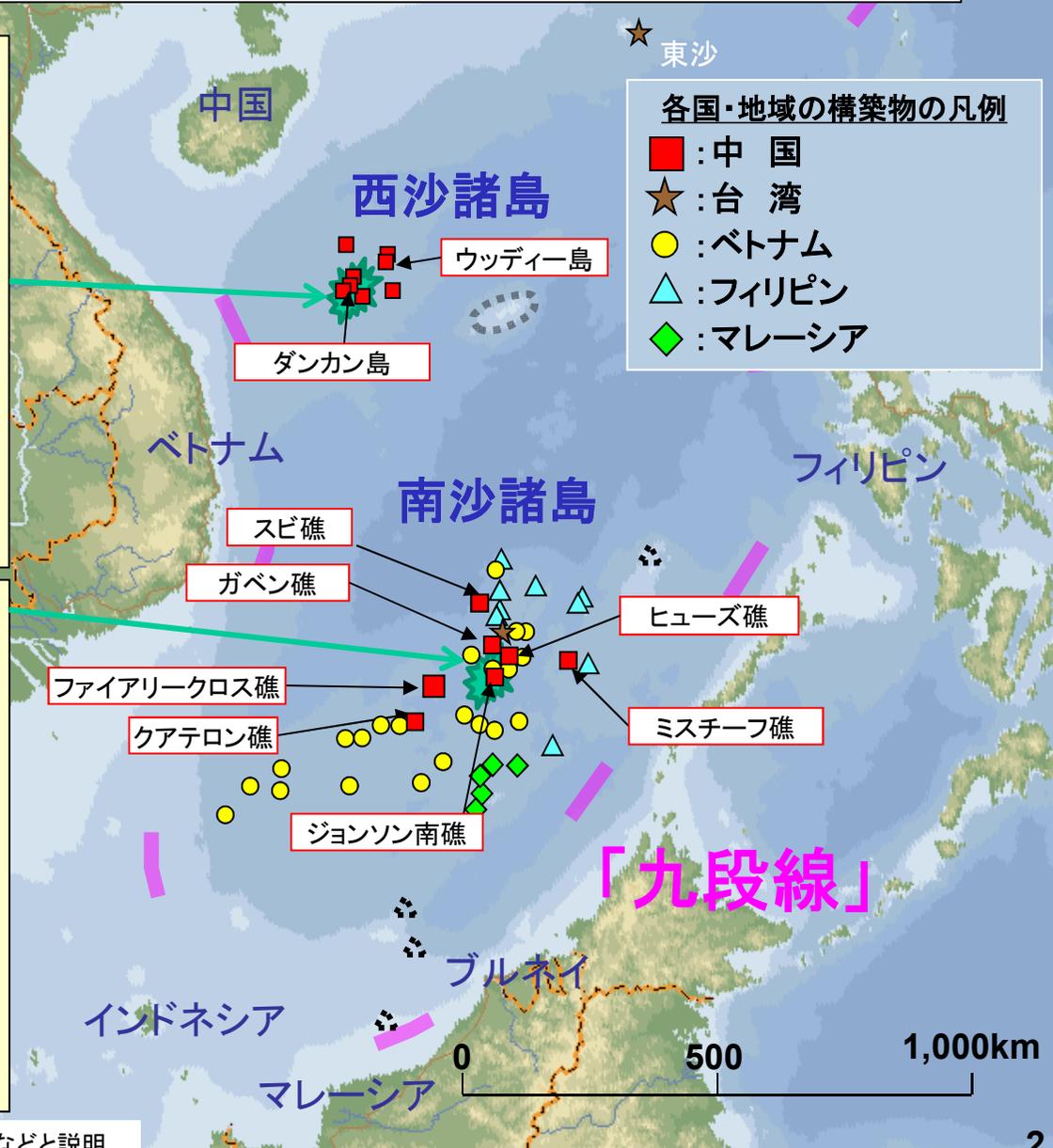
中国側の損害
1名が負傷



攻撃を受けるベトナム艦艇

越側の損害
艦艇2隻が沈没、1隻に損傷
400名以上が死傷

ベトナム側が撤退し、中国がジョンソン南礁を占領



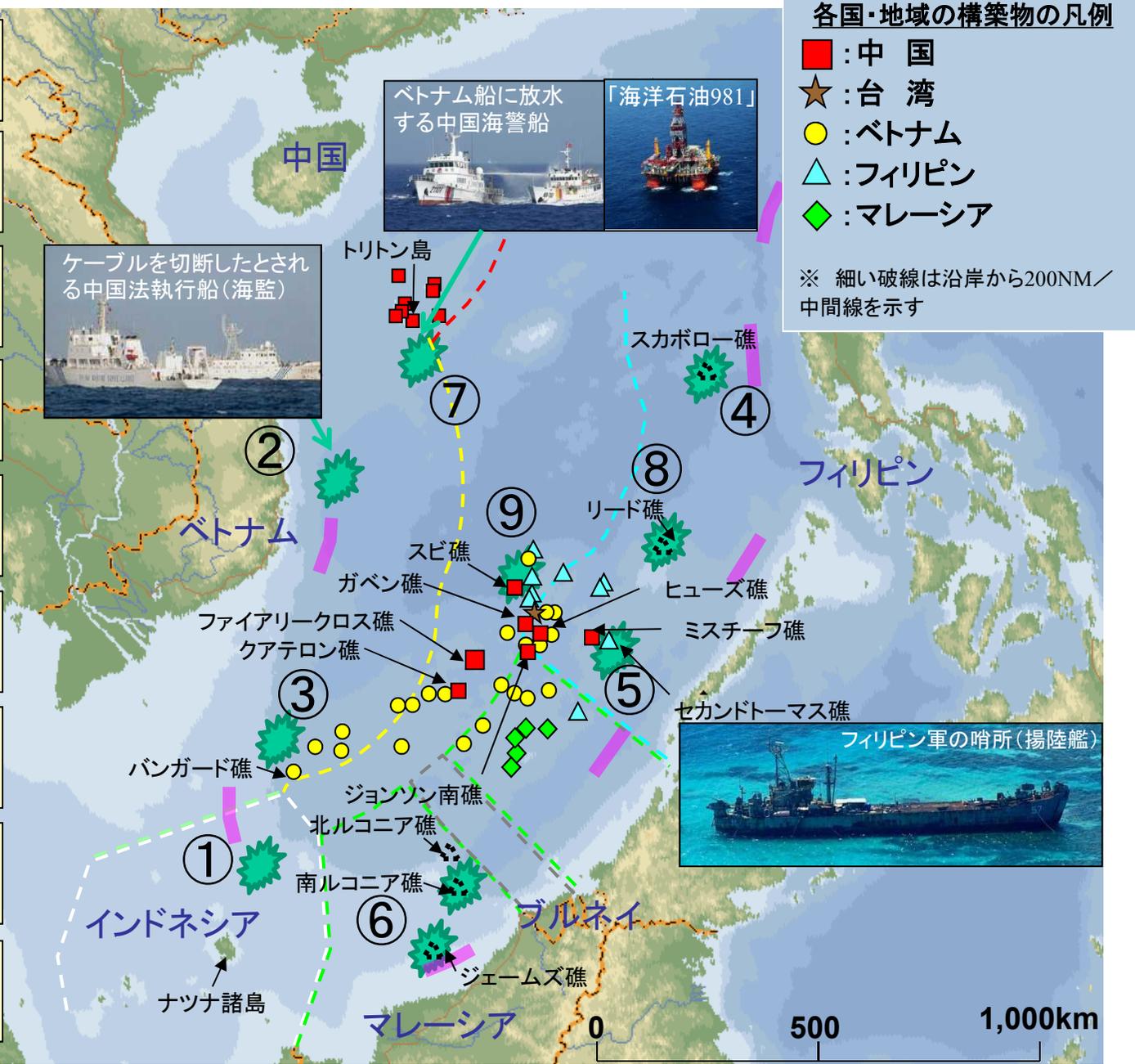
※ 上記2件に関して中国側は、(南)ベトナム側が不当に侵入し挑発してきたためなどと説明

(資料源: 中国国防部HP、各種報道 等)



1-3 最近の中国の軍・海上法執行機関等による活動の事例

- ①2010年6月、ナツナ諸島周辺で、中国漁船を拿捕したインドネシア巡視船に対し、中国海上法執行船が砲の照準を合わせ威嚇
- ②2011年5月、ベトナムの沖合で海上法執行船舶(海監)がベトナム資源探査船の作業を妨害し曳航していたケーブルを切断
- ③2011年6月、バンガード礁周辺で作業していたベトナム資源探査船の航行を中国艦船が妨害
- ④2012年のスカボロー礁でのフィリピン艦船との対峙以降、中国海警船舶がプレゼンスを維持
- ⑤2013年5月、セカンドトーマス礁周辺に艦船を派遣し、フィリピン軍の哨所(揚陸艦)への補給を妨害
- ⑥2013年10月、南ルコニア礁周辺へ艦船を派遣。この他、2014年1月、ジェームズ礁周辺で艦艇が活動
- ⑦2014年5月～7月、トリトン島南方に軍・海警船舶の護衛を伴いつつオイルリグを展開し、ベトナム艦船と対峙
- ⑧2014年8月、中国海警船舶がリード礁で活動し標識を投下。2011年にもフィリピン船舶の航行を妨害
- ⑨2015年4月、スピ礁周辺でフィリピン航空機に対する強力な光の照射、退去要求などを行い、フィリピン側が懸念を表明

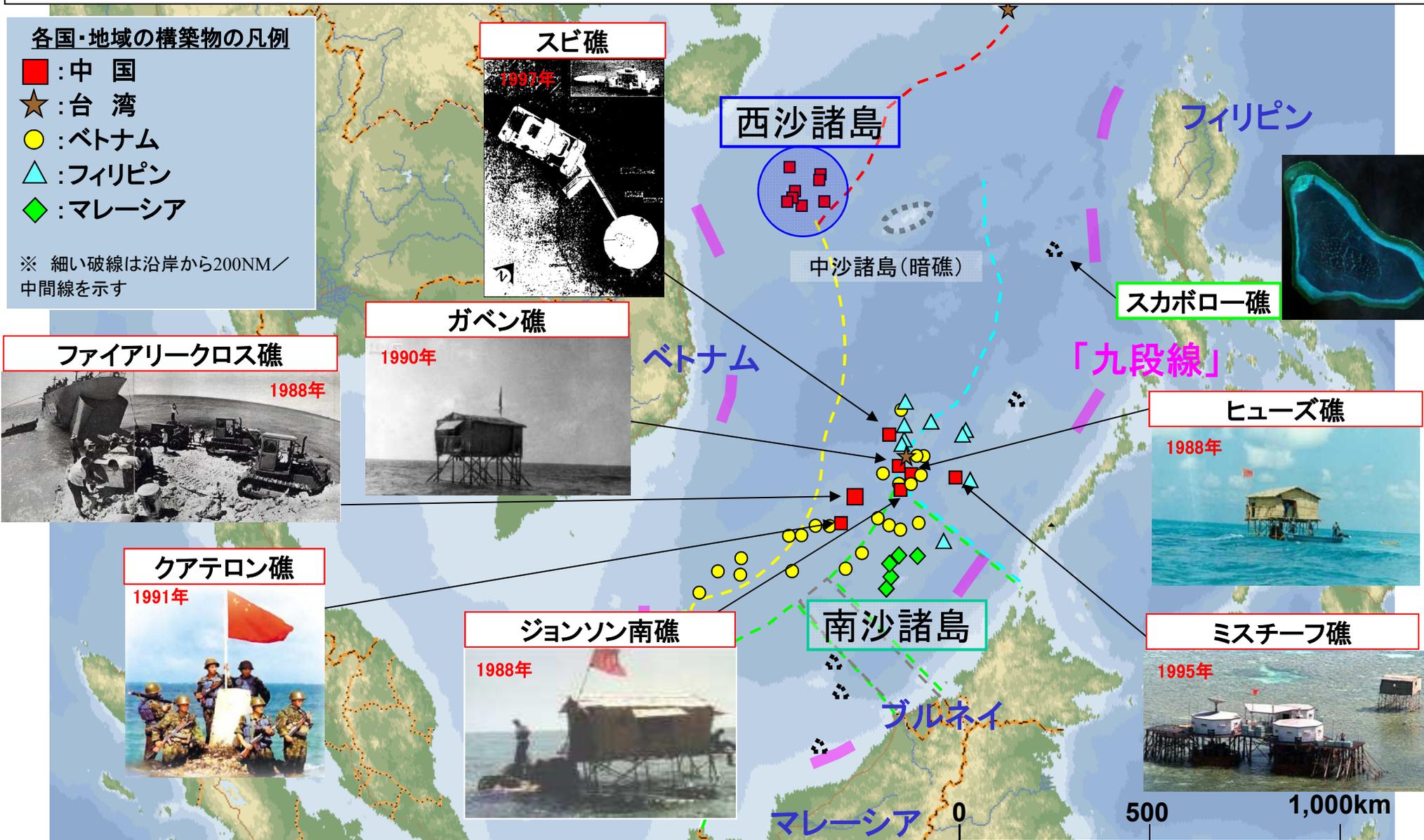


(資料源: 各種報道 等)



2-1 中国による南沙諸島の占拠の状況(埋め立て前)

- 中国は南沙諸島において合計7つの礁を事実上支配し、構造物建築
- 領海法制定(92年)や三沙市・三沙警備区設置(12年)等、領有を前提とした国内法の整備等も併せて推進





2-2 中国による南沙諸島の占拠状況(埋め立て後)

各国・地域の構築物の凡例

- : 中国
- ★ : 台湾
- : ベトナム
- ▲ : フィリピン
- ◆ : マレーシア

※ 細い破線は沿岸から200NM / 中間線を示す

中国が事実上支配する環礁の埋め立てが活発化。ファイアリークロス礁は南沙諸島第1の広さに(元は台湾が事実上支配する大平島が最大)。

74年に全域を占拠
(73年 米軍が旧南越から撤退)



スピ礁

西沙諸島

中沙諸島(暗礁)

スカボロー礁

ファイアリークロス礁



ガベン礁



フィリピン

ヒューズ礁

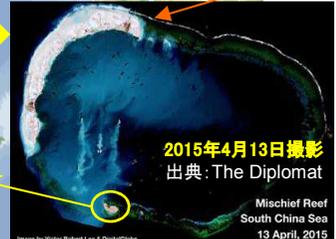


クアテロン礁



ベトナム

ミステーフ礁



ジョンソン南礁

「九段線」

南沙諸島

88年に占拠(ミステーフ礁以外の6か所)
(80年代 旧ソ連の対越軍事支援・プレゼンス低下)

95年に占拠
(92年 米軍が比から撤退)



インドネシア マレーシア 0 500 1,000km

(資料源: 各種報道等)



3-1 中国の南シナ海における岩礁埋立動向

出典: IHS Jane's, CSIS Asia Maritime Transparency Initiative / DigitalGlobe (※付)、各種報道等

ジョンソン南礁



ヒューズ礁



クアテロン礁



ガベン礁



ファイアリークロス礁



スピ礁



ミステーフ礁



米国防省「中国の軍事及び安全保障の進展に関する年次報告」(2015年版、5月8日公表)
「2014年末時点で約500エーカー(※約2km²)を埋め立てた。最終的な状況は不明確であるが、港湾、情報・監視システム、後方支援及び滑走路が含まれるであろう」と記述。
※ 公表時、米国防省当局者は、埋め立て面積が約8km²となったと指摘(4ヶ月程度で面積が約4倍に)

2015年3月31日、米太平洋艦隊司令官は、中国の埋め立てを「**砂の万里の長城**」と表現して懸念表明

2015年4月9日、中国外交部報道官は、「拡張後の機能は**必要な軍事上の要求を満たす**」と発言

2015年4月21日、比参謀総長は、中国の埋め立てにつき**軍事目的の可能性**があり**緊張を招き得る**と指摘

各種報道では、埋め立てに関する写真や上記発言等を引用しつつ**軍事基地化の可能性**について指摘



3-2 中国の南シナ海における岩礁埋立動向(礁別)

ジョンソン南礁

2013年2月



出典:フィリピン軍

2014年2月



出典:フィリピン軍

2014年8月



出典:IHS Jane's



3-3 中国の南シナ海における岩礁埋立動向(礁別)

ヒューズ礁

2013年



出典:各種資料

2015年1月



出典:IHS Jane's



3-4 中国の南シナ海における岩礁埋立動向(礁別)

クアテロン礁

2013年3月



出典:各種資料

2014年11月



出典:CSIS/AMTI



3-5 中国の南シナ海における岩礁埋立動向(礁別)

ガベン礁



出典:IHS Jane's



出典:IHS Jane's



出典:IHS Jane's



3-6 中国の南シナ海における岩礁埋立動向(礁別)

ファイアリークロス礁

2014年8月



出典: CSIS/AMTI

2015年3月



出典: CSIS/AMTI



3-7 中国の南シナ海における岩礁埋立動向(礁別)

スビ礁

2015年1月



出典:IHS Jane's

2015年4月



出典:The Diplomat



3-8 中国の南シナ海における岩礁埋立動向(礁別)

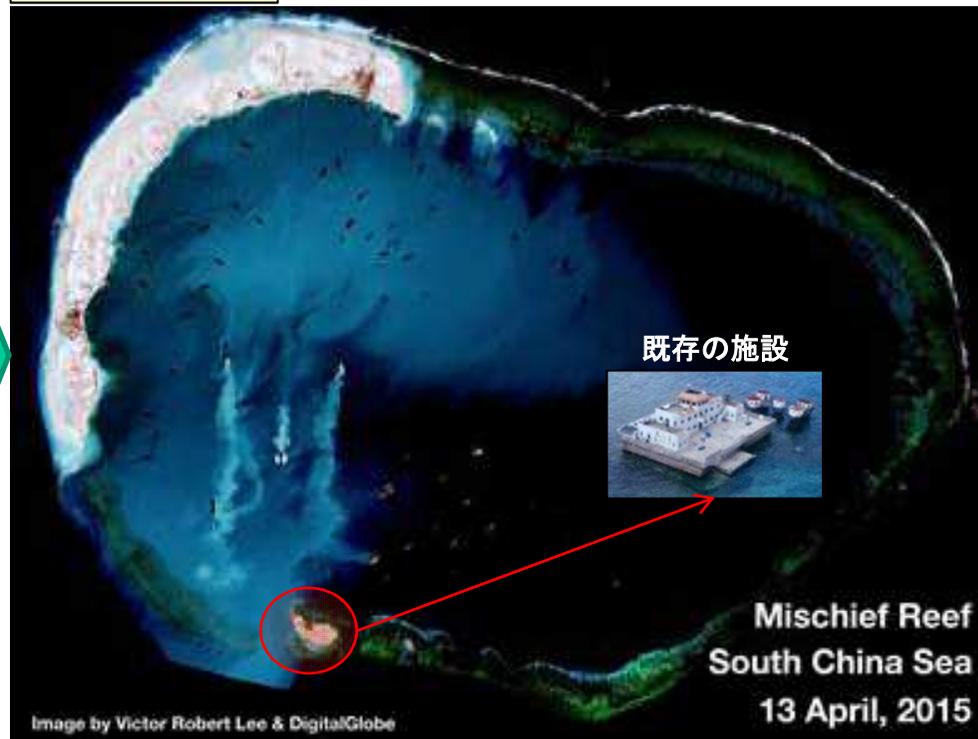
ミスチーフ礁

2012年1月



出典: CSIS/AMTI

2015年4月

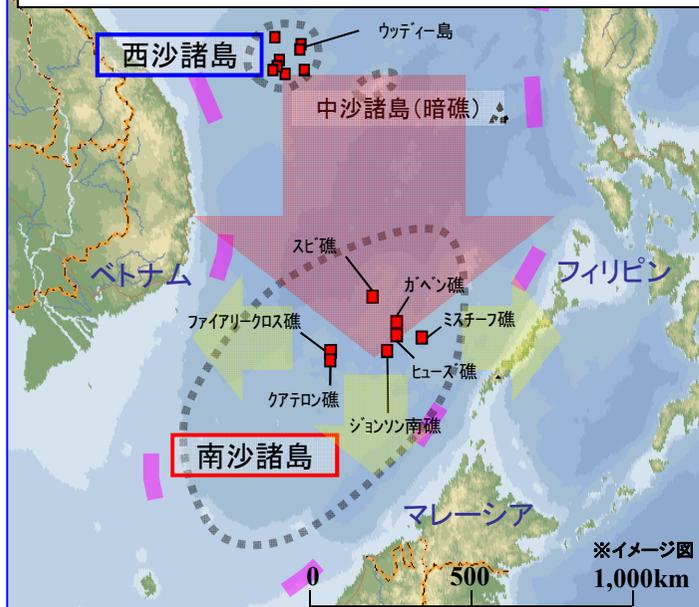


出典: The Diplomat



4 南沙諸島の基地化による中国のプレゼンスの増大

● 中国が、仮に南沙諸島に各種軍事施設を設置した場合、一般論として、以下のような影響が考えられる



港湾を建設した場合

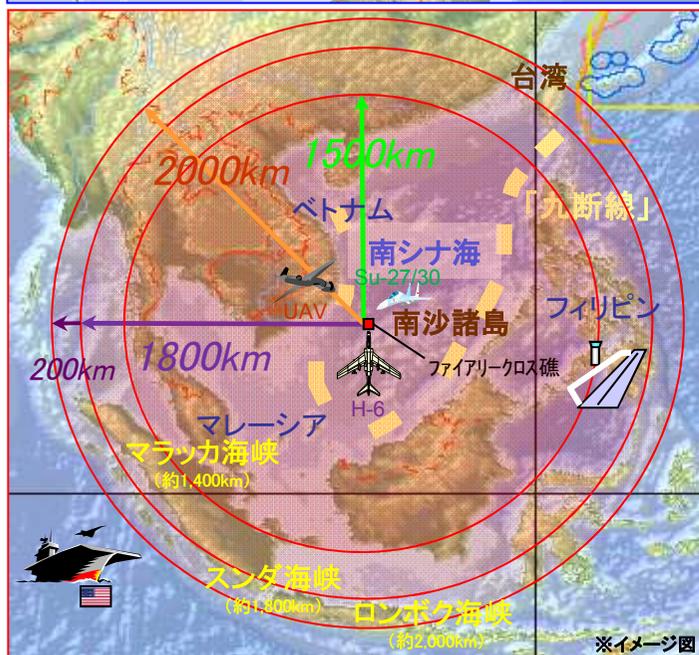
- 一定規模以上の**港湾を建設**し、海軍艦艇、海警船等の展開、補給、メンテナンスを行う能力を確保することで、**南シナ海全域に艦艇・海警船を常態的に配備**することが可能
⇒ 特に**南シナ海沿岸国への影響大**との論調あり

滑走路を建設した場合

- ファイアリークロス礁に**滑走路を建設**し、戦闘機・爆撃機・UAV等の前方展開・補給拠点として**南シナ海全域に及ぶ戦力投射能力の向上**も可能
⇒ ①南シナ海における中国の**航空優勢が強化**されると共に、②米軍の介入に対する中国の**A2/AD能力が向上**する可能性、さらには、今後③「**南シナ海防空識別区(ADIZ)**」を設定する可能性について指摘する論調あり
- スピ礁のような大きな環礁でも大規模埋立てが実施されていることから、**複数の滑走路が建設される可能性**を指摘する報道。実際に建設された場合、**中国航空戦力のプレゼンスはさらに増大**との論調あり

中国海空軍・海警プレゼンス増大の影響

- **軍事基地機能の形成**による**艦艇、海警船、作戦機等の常態的な展開**が実現されれば、南シナ海中南部における**警戒監視能力や作戦遂行能力**が大幅に向上する可能性
- **民間人(漁民等)の入植を促進**し、経済活動を定着させることで、「島」としての**有効性が国際社会に誇示**されれば、**海洋進出の既成事実化**が促進されるとの懸念について指摘あり



5 中国とフィリピン、ベトナム、マレーシアの海上・航空戦力比較

主な南シナ海沿岸国であるフィリピン、ベトナム、マレーシアと中国との質的・量的な戦力差は歴然



中国

艦船: 892隻、142.3万t

潜水艦: シャン級(6,100t) × 2
 ユアン級(2,900t) × 12
 キロ級(3,100t) × 12 等
 駆逐艦: ソブレメンヌイ級(6,500t) × 4
 ルーヤンII級(5,700t) × 3 等

作戦機: 2,582機(内第4世代機689機)

戦闘機: J-10 × 264、Su-27/J-11 × 328
 Su-30 × 97 等
 哨戒機(固定翼): Y-8 × 3 等

海上法執行船: 艦船370隻以上

沿岸監視船(1,500t以上) × 18
 沿岸監視船(1,500t以下) × 48 等

※環球網によると、海上法執行船(1,000t以上)を52隻保有

ベトナム

艦船: 94隻、3.7万t

潜水艦: キロ級(3,100t) × 2、ユーゴ級(100t) × 2
 フリゲート: ゲパルト級(1,600t) × 2
 ペチャ級(1,000t) × 5
 コルベット: BPS500級(400t) × 1

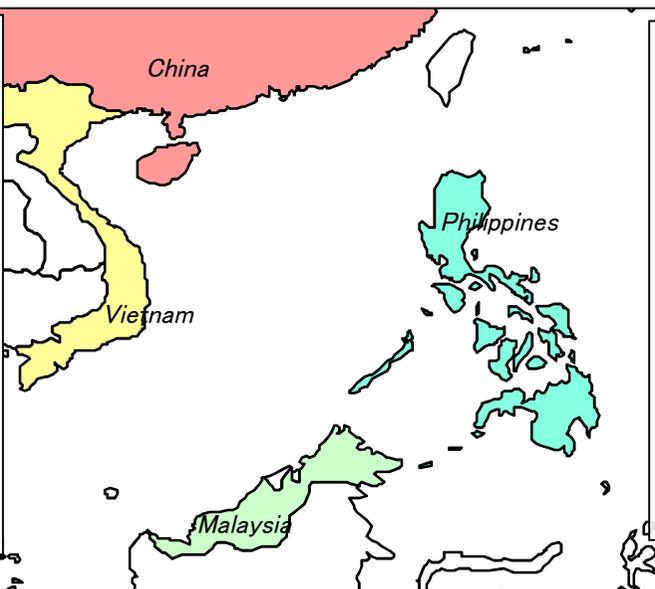
作戦機: 97機(内第4世代機34機)

戦闘機: Su-30MK2 × 23、Su-27 × 11、MiG-21 × 33 等
 哨戒機(固定翼): なし

海兵隊2万7,000人

沿岸警備隊: 艦船34隻以上、漁業監視局

沿岸監視船(1,500t以上) × 2、
 沿岸監視船(1,500t以下) × 1、哨戒機 × 3 等



フィリピン

艦船: 80隻、4.7万t

潜水艦: なし
 フリゲート: ハミルトン級(2,700t) × 2
 キャンン級(1,400t) × 1
 コルベット: オーク級(1,100t) × 2 等

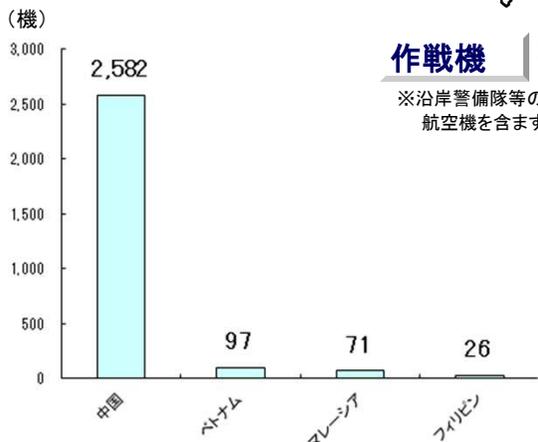
作戦機: 26機

戦闘機: なし※ ※14年、韓国製FA-50戦闘機12機を購入済(17年までに導入予定)
 攻撃機: OV-10ブロンコ × 10
 哨戒機(固定翼): F-27、N-22SL各1 等

海兵隊: 8,300人

沿岸警備隊: 艦船58隻

沿岸監視船(1,500t以下) × 5、海難救助ヘリ × 3 等



マレーシア

艦船: 208隻、5.8万t

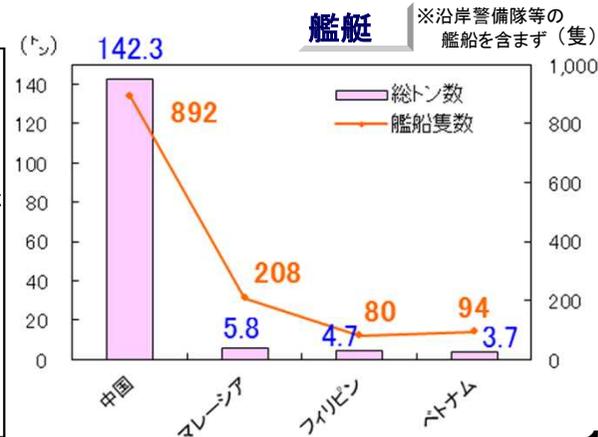
潜水艦: スコルペン級(1,800t) × 2
 フリゲート: レキウ級(1,900t) × 2、コルベット: カツリ級(1,500t) × 2 等

作戦機: 71機(内第4世代機36機)

戦闘機: Mig-29 × 10、Su-30MKM × 18、F/A-18 × 8 等
 哨戒機(固定翼): なし

海上法執行庁: 4,500人、艦船189隻、海上警察: 2,100人

沿岸監視船(1,500t以上) × 2、哨戒機 × 2、海難救助ヘリ × 3 等



6 フィリピン、ベトナム、マレーシア等による開発動向

- 中国以外(越、比、馬、台)は80年代から90年代にかけて滑走路を建設(600m~1,000m級)
- 各国・地域とも施設の維持・整備を実施、ベトナムは、近年、埋め立て実施の指摘あり

